



延喜式内名神大社

生島足島神社便り

Vol.51

臨時増刊号



祇園祭「浦安の舞」

ごあいさつ／退任の御挨拶	2
生島足島神社のおふだ／山宮社例祭／夏越の祓（六月の大祓式）	3
九月～十一月までの行事／神賑祭のお知らせ／お知らせ／編集後記	4



生島足島神社
ホームページ

ごあいさつ

氏子総代長
松澤繁樹

盛夏の頃、氏子崇敬者の皆様方におかれましては益々ご繁栄の事とお喜び申し上げます。

又平素は当神社のご祭事に対し温かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて就任して五か月ほど経ちました



が、対外的な事もふくめ祭事の段取り、準備、環境整備等仕事の多さに驚きながらも前依田総代長にアドバースを頂きながらようやく落ち着き始めて来たところです。前総代

長の神社に対する「運営力」や「思い」

そして長年のご苦勞に敬意を表したいと思ひます、大変ご苦勞様でした。今後私

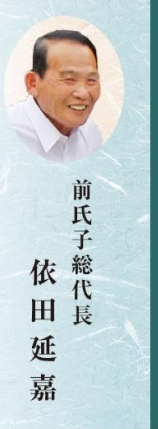
たち総代も伝統を重んじ責任と自覚

を持ち、神職・職員「丸となり神社発展の為、まず環境整備に力を注いで行きます。多くの参拝者の方々にも何度か来て頂ける神社を目指すため皆様方の苦言、助言をお願いし

ます、また祭事、催し等にも積極的に参加していただきながら、この思いにご理解とご協力をお願い致します。健康に留意され神社に来て頂くのをお待ちしております。



退任のご挨拶

前氏子総代長
依田延嘉

謹啓 盛夏の候 氏子崇敬者の皆様方におかれましては、益々の御繁栄と御健勝にておすごしの事と心より慶びを申し上げます。また、神社には多大な御協力、御支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、今回、退任に当り、一言御礼を申し上げ、皆様方の御協力と御支援に心より感謝を致し、副総代長二期四年、総代長を五期十年と長期に渡って、氏子崇敬者の御支援、御協力に依り、大任をまっとうする事が出来ました。モットーとして「度神社に御越しいただいたお客様には、再び訪れたいくなる様な環境作り」を目標にかかげてまいりましたが、結果として客足が大幅に増えたと思います。元号も令和の時代に入つて、世代変わりがさげられる中、生きた足跡が少しでも残せればと考え、新しい文化と歴史を越しながら、後世に伝わって



行く行事を願って、時代の流れに取残されない様に何らかの機会にかかわって神社の発展に寄与する事が出来れば、いち氏子として御協力を致したいと考え、最後に皆様方の御健勝と生島大神、足島大神の御神徳が氏子の皆様に行き渡る様、御祈を申し上げ、御支援をいただいた氏子崇敬者の皆様へ心より御礼を申し上げ御挨拶を申し上げます。

謹白

生島足島神社のおふだ



宮司 宮川 清彦

十二月二十三日の新穀感謝祭（新嘗祭）で献穀米を奉納いただいたときにお渡ししているおふだは、小松宮彰仁親王（ごまつのみやあきひとしんのう）が揮毫（きごう）された掛け軸よりいただいたものです（当神社社蔵）。明治のころに活躍され、「宮さん宮さん、お馬の前でひらひらするのはなんじやいな、とことんやれとんやれな…」とうたわれる宮様です。上田に立ち寄られたことがあり、この掛け軸はその時に揮毫されたものと推察され、臣籍降下（しんせきこうか）をして現在に至ります。

現当主の小松輝世久（きよひさ）氏は伊勢の神宮の大宮司に平成二十九年に就任されており、御親謁（ごしんえつ）（ごさんはい）される今上陛下をお迎えになります。

おふだに記される、生島「島」の字体は「鳥」の下に「山」を置く。あまり見かけない漢字ですが、大八洲（おおやしま：日本列島）の守り神をお祀りする当神社にとつてはふさわしいものと思います。



山宮さま

禰宜 池内宣裕

御祭神

南方富命（タケミナカタノミコト。諏訪大社上社の神様。）

八坂刀賣命（タケミナカタノミコトの妃神。諏訪大社下社の神様。）

新緑映える五月の十日、山宮社の例祭が午前九時から斎行されました。

リサーチパーク上田市マルチメディア情報センターの奥、御柱が伐り出される東山山中に諏訪様御夫妻の神様が鎮座されます。

東山には東信濃最大級の東山古墳群があり、御社祠に用いられている大きな平石は古墳の大石なのではないかと云われています。また、工科短大向かいの「い

夏越の祓（六月の大祓式） 禰宜 池内宣裕

当日は境内の歌舞伎舞台前広庭にて祓主が大祓詞を奏上した後、参列者は各自その場にて切麻を左右左と自身に振り掛け、人形（ひとがた）で身体をなで、息を三度吹きかけました。誰もが知らず知らずの内に犯したであろう半年間の罪や過ち、心身の穢れを祓い去り身も心も清らかな姿に立ち返り、茅の輪くぐりに向かいました。古来より邪気を祓い除ける力があるとされる茅の輪をくぐるにより、心身ともにみずみずしい活力を得て悪疫を免れ、暑さ厳しい夏を乗り越えることとなりました。

茅の輪くぐりは、八の字になるよう左右左と三回くぐります。その回毎に、行列の先頭である先導所役がくぐる前、祓歌を奉唱しました。

にしえの丘公園」には、この地方で代表的、貴重な遺構とされる市指定史跡「他田塚古墳」があります。

山宮様のお祭りの頃から、お山ではサツキをはじめとするツツジや様々な草木の花が咲きます。青葉薫る本格的な里山の時期となります。日本では山の女神は、容姿が美しくないという伝承（神話に登場するイワナガヒメノミコト）もあり、お供え物の魚をグロテスクとみられるオコゼを供える風習があります。

そのような事からオコゼを供えてきましたが、海のシケで獲れない時にはカサゴやカジカ等を供えた事もありました。



祓歌

「水無月の夏越の祓するひとは

千歳のいのち延ぶといふなり」 拾遺和歌集

（六月に大祓の神事をおこなった人は、千年も寿命が延びるといわれている）

「思ふことみなつきねとて麻の葉を

切りに切りても 祓ひつるかな」 和泉式部

（思い悩みがすべて尽きてしまうように祈りながら、麻の葉を細かく切ってお祓いしようか）

本年は約400人の参列者の行列となり、先頭と後尾が繋がるほどの長さでした。祭事終了後に「生島むすび」（塩おむすび）が頒布されました。



九月～十二月までの行事

九月

一日 九月 月次祭

一日 田面神事

十五日 八幡社例祭

十六日 敬老の日は、国旗を掲げましょう。

十九日 例祭(御本社) 午後 神賑祭

二十三日 秋分の日は、国旗を掲げましょう。

十月

一日 十月 月次祭

十四日 体育の日は、国旗を掲げましょう。

二十二日 即位礼の日は、国旗を掲げましょう。

十一月

一日 十一月 月次祭

三日 文化の日は、国旗を掲げましょう。

御遷(移)神事引続き御籠祭

四日 子安社例祭

十四・十五日 大嘗祭の日は、国旗を掲げましょう。

日程未定 新穀感謝祭

(毎年十一月二十三日に実施されています)

現在、大嘗祭との

関係で祭事予定日

は未定となっています。

まず、決定次第、お知らせ致します。



田面神事の様子

第十六回「神賑祭」のお知らせ

日時 九月 十九日

開場 午後一時三十分

開演 午後一時四十分

ところ 歌舞伎舞台(県宝)前庭

催事

清興上小雅楽会

上小雅楽会は神主を中心に結成されました。

神賑祭では皆さんが

興味を持てるよう、演奏

はもちろん神楽などを予定しています。

悠久の時を超え受け

継がれる「みやびなしら

べ」へご案内致します。

お楽しみください。

楽団シルバーフレンド

年齢は五十代から九

十五歳まで、平均年齢

は約七十四歳になります。

十二名で演奏活動

しています。

日本舞踊竹本流



日本舞踊竹本流



楽団シルバーフレンド



清興上小雅楽会

お宮参り

随時、承り中

初宮詣や七五三詣はお子さんの健やかな成長を祈る大切な儀式です。

初宮詣・七五三詣のご祈願は、午前九時から午後四時までです。

所要時間は約十五分位です。神職がお祓いをして、神様に祝詞を奏上致します。

そして、福鈴の振り幣を受け、親御さんやお子さん自身が玉串を捧げ、拝札致します。

終わりに神社からお札、お守・記念品のおさがりをいただきます。

貸衣装、記念撮影は神社写真室「夢うさぎ」をご利用できます。

利用できます。



名入れ福だるま予約受付中

名入れ福だるまを予約受付中です。

日頃のご協力に感謝を込めて令和の

新年福だるまを名入れと共に、御祈禱、

御神札をお頒ち

致します。予約

ご希望の方は神

社・広報部まで

お問い合わせく



編集後記

当神社の情報発信をどのように行うか検討する中で「まいぷれ」がスマホで当神社にスポットをあて全国「世界」に向けて自発的に発信している事がわかり、相互協力の元、当神社からの情報を提供することとしました。

「まいぷれ」とは、地域に根ざし、その街で暮らす人にとって楽しい話題や有益な情報を作り発信する地域情報サイトです。

この街のタイムリーな話題や、毎日軒先を通るお店で起こっている出来事、街のどこかで見かけたイベントにこめられた思い、街じゅうで起きている小さいけれどユニークなニュースを「まいぷれ」で知ることができます。

その中において、「株式会社アドクリエイティブデザイン」が「まいぷれ上田・東御」を運営し、主に上田・東御の地域に密着した話題や生島足島神社の情報を発信をしていますので、ごらん下さい。(左記カードは授領所に用意されています。)



「広報部」